

# 2024 年度 浜松科学館ボランティア活動報告

ボランティア活動支援担当 横田 誓子、水谷 穂波、岩本 歩夢

## 概要

2024年度の浜松科学館ボランティアは31名の新規メンバーが加わり、総登録人数は一般ボランティア27名、ジュニアボランティア41名の計68名となりました。ボランティアが自主企画・運営する「Mite Mite」の活動の充実に加え、科学の学園祭へのブース出展、ボランティア交流会のほか、ボランティア研修として「サイエンスコミュニケーション研修」や「やさしい日本語研修」、外部講師を招いて利用者支援研修（視覚障害）などを実施しました。今年度のボランティア活動について報告します。

## 1.2024 年度活動の概要

### (1) 年間スケジュール

4月～5月末	新規ボランティア募集 (広報はままつ・当館HP)
6月	面談 オリエンテーション
7月1日～	活動開始
9月～2月	アクセシビリティに関する研修 ・館内サイン調査 ・利用者支援研修（視覚障害） ・「やさしい日本語」研修
10月	科学の学園祭
2月	交流会

### (2) 主な活動

#### 【ワークショップ・イベントの支援】

多くのボランティアが参加している活動です。



図1：ボランティアの活動

#### 【展示案内】

展示の使い方や場所の案内や、スタッフの補助が必要な展示アイテムを運用する活動です。来館者が展示物を正しく利用することで、理解が深まることが期待できます。



図2：音ゾーン 展示案内の様子



図3：カゾーン 教訓コップの運用

#### 【自然観察園の整備、アリの調査】

月に一度、自然観察園の整備や生き物観察、アリの調査などを行いました。自然観察園の整備は、2019年から継続的に実施している活動です。



図4：自然観察園の整備

【自主イベントの企画・運営】

ジュニアボランティアが参加した「科学の学園祭」と、一般ボランティアによる自主企画・運営のイベント「Mite Mite (ミテミテ)」のうち、今年度新たに実施した内容をご紹介します。

○科学の学園祭：10月5、6日

ジュニアボランティアが主体となって工作、実験のブースを出展しました。今年度はプラスチックダンボール（プラダン）と割りピンを使い、マジックハンドの要領で動く工作「ガブガブダイナソー」と、3Dプリンターで印刷したおもちゃを手にとって遊べるブースを出展しました。



図5：ガブガブダイナソー



図6：3Dプリンター写真

○「楽器の音色を比べてみよう」

Mite Mite：月2回程度活動

内容：自作の一弦ギターや鉄琴、太鼓を用いて、音の高さや響きが変わるしくみを解説するとともに、器が美しい音色を奏でることができる理由を伝えました。



図7：Mite Mite「楽器の音色を比べてみよう」

○「光の全反射」

Mite Mite：月2回程度活動

内容：大きさの違うレンズ4枚を直線上に並べて覗き、反対側の景色を確認します。レンズの焦点部分に棒や手を入れると、光の屈折により消えて見える現象を解説しました。



図8：Mite Mite「光の全反射」

【ボランティア交流会】

交流会の前半では、年度の締めくくりとして、今年度(2024年度)の活動報告や、次年度に向けた活動のアイデア出しを行いました。特に、今年度実施された展示リニューアルより開設した「みらいーらルーム」を使った活動については、やってみたいこと、できたら面白そうなことを参加者で話し合い、実際に実現できそうなアイデアを多く発案しました。



図 9：アイデア出しの様子

後半はプラネタリウムに移動し、コンソールの操作体験や、～体験をしました。その後、ボランティアから「浜松の季節」をテーマに写真を募集して制作されたプラネタリウム番組「まわる星と、かわる季節」を観覧しました。プラネタリウム投映では、ボランティアメンバーの家族も招待しました。



図 10：コンソールの操作体験

## 2. ボランティア向け研修の実施

### ①サイエンスコミュニケーション研修

参加者：一般 5名

ジュニア（高校生） 1名

サイエンスコミュニケーションは科学を通じて来館者と接する科学館ボランティアにとって、とても重要な考え方です。昨年に引き続き研修を実施し、科学を伝える手法について考え方を深めました。



図 11：サイエンスコミュニケーション研修

### ②アクセシビリティ向上に関する活動

#### ・館内サイン調査

参加者：ジュニア（中高生） 5名

館内サインの状況を調査し、広報担当の職員と一緒に、サインの見直しを検討しました。



図 12：検討の様子

#### ・やさしい日本語研修

参加者：ジュニア（中学生） 1名

浜松市の特徴である多文化共生や「やさしい日本語」とは何か、なぜ必要なのかを学びました。

#### ・利用者支援研修（視覚障害）

科学館に来館する、さまざまな背景をもつ利用者への支援について学ぶことを目的として、視覚障害者支援について外部講師を招いて研修を行いました。

※科学館のブログで当日の様子を紹介しています。

<https://mirairavolunteer.wordpress.com/2024/12/>

講師：斯波千秋氏（NPO 法人六星相談役）

山城ウエンディ氏

松下歩氏

参加者：一般 2人、ジュニア 3人

※職員 6人



図 13：視覚障害者支援の研修

・「やさしい日本語」案内の作成

2023年、2024年度に「やさしい日本語」研修を受けたジュニアボランティア5人と一緒に、「やさしい日本語」案内を作成しました。また、完成した案内の検証のため、市内の外国人学校ムンド・デ・アレグリア学校の生徒さんたちを招き、ジュニアメンバーと一緒に、「やさしい日本語」案内を見ながら館内を回った後、意見交換や交流をする機会を設けました。



図 14：意見交換の様子

3. ボランティアアンケート

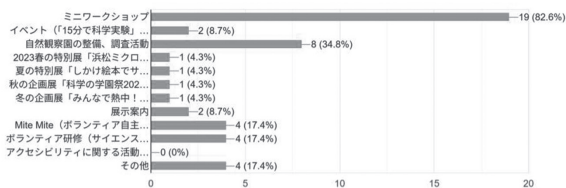
次年度のボランティア活動、運営に生かすことを目的に、ボランティアメンバーによる活動の振り返りから、浜松科学館ボランティア事業のセルフモニタリングを行いました。(以下抜粋して報告します)

○ボランティア活動充実度調査

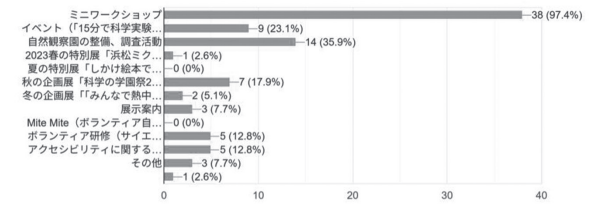
- ・調査期間：2025年2月23日 u(日)～2025年3月15日(日)
- ・調査対象人数
  - 一般 27人 ジュニア 41人 計 68人
- ・回答数
  - 一般 23人 ジュニア 39人 計 62人

①あなたが参加した活動について教えてください。(複数回答可)

(一般)

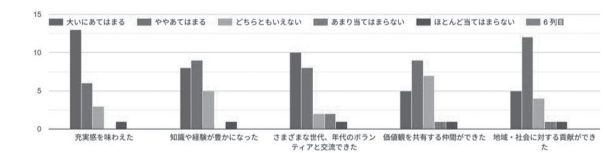


(ジュニア)

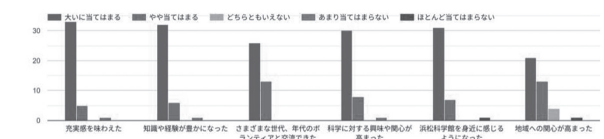


②今年度ボランティアに参加していかがでしたか。当てはまる回答を選んでください。

(一般)



(ジュニア)

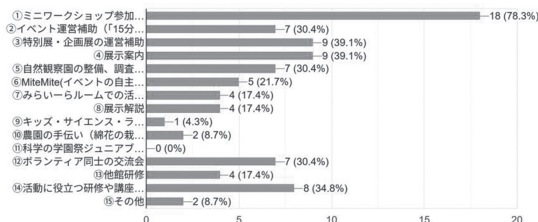


※評価指標

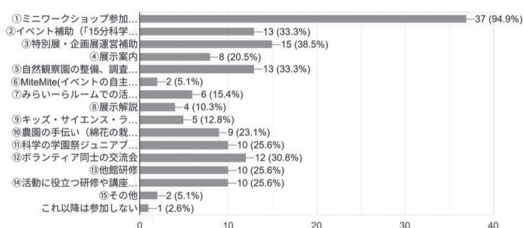
1. 充実感を味わえた
2. 知識や経験が豊かになった
3. さまざまな世代、年代のボランティアと交流できた
4. 価値観を共有できる仲間ができた  
(ジュニア：科学に対する興味や関心が深まった)
5. 地域・社会に対する貢献ができた  
(ジュニア：浜松科学館を身近に感じるようになった)
6. (ジュニア：地域への関心が深まった)

### ③今後、どのような活動をしたいですか

(一般)



(ジュニア)



活動の評価では、質問項目「1 充実感を味わえた」で、「大いにあてはまる」「ややあてはまる」と答えた人が、一般 82.6%、ジュニア 97.4%で、非常に高いものでした。メンバーからは「普段接することのない子どもたちやジュニアボランティアと交流することで新鮮な気持ちで活動できた(一般)」「自分自身をもっと科学を楽しみたい(一般)」「アクセシビリティの活動で、自分の出した意見を実際に試すことができ、自分もチームの一員として活動できていると感じられた(ジュニア)」「新しい分野への学びや興味が大いに得られた(ジュニア)」などの感想が得られ、科学館での活動を楽しむ様子がうかがえました。一方、「MiteMiteの活動改善のために、フィードバックがほしい(一般)」「ボランティアの最低限の基準設定は必要である(一般)」「既存展示の維持管理、説明表示等に改善が必要である(一般)」など、ボランティア全体の運営、科学館事業への要望など、広い視野で活動を見直す意見もありました。

### 4. おわりに

2024年度は、一般、ジュニアともに登録人数が大幅に増加しました。それに伴い、一般メンバーのキャリアや専門性を生かした展示案内活動の場やMiteMiteの活動内容の幅が広がり、継続的な活動をしていただきました。ジュニアメンバーはワークショップでの活動を中心に、利用者支援やボランティアどうしの世代間交流を楽しむ様子が見られました。また、アクセシビリティに関する活動では、館内サイン調査など新たな取り組みを始めるとともに、1年をかけて作成した「やさしい日本語」案内を検証するために、外国人学校の生徒と交流の機会を持つなど、充実した活動ができました。11月には新設されたボランティアルームの運用が始まり、ボランティアの居場所、拠点ができました。当館のボランティアはジュニアメンバーが非常に多いことから、中学校部活動の地域展開など、学校や社会の動きを視野に入れつつ、ジュニアメンバーの受入れや活動の在り方を検討するとともに、自律した活動を支えるボランティアの組織化を目指し、引き続きボランティアとの協働をすすめていきたいと考えています。

